

平成十九年度日本花菖蒲協会

北海道研修旅行記

東京都 村井 醇

平成十九年度研修旅行は北海道のノハナシヨウブを見に行くことになりました。

七月二十二日(日)羽田に集まった一行は女性十四名男性七名でした。

飛行機は途中問題なく安定した飛行を続け十一時五十分女満別空港に着きました、バスに乗り換え網走に向かい昼食を摂りました。

バスは最初の見学地小清水原生花園に向かいます、車中ガイドさんの案内で右を見たり左を見たり、網走刑務所の古い門を持ってきてしまったお寺の門前も通りました。瀧沸湖の辺りではノハナシヨウブの咲いているのがちらほら見えました。

小清水原生花園は鉄道線路とオホーツク海の海岸線に挟まれた広い空間に今を盛りこのハマナスをはじめとして沢山の草花が咲き乱れ、それが緩やかな起伏の中何キロも続きます、スケールの違いに圧倒されませんが、その先に続くオホーツク海が冬には流水が押し寄せ、強い風に煽られて牙を剥く荒海だと言うことを少しも感じさせない穏やかな風景が広がっていました。

斜里町の辺りで、エーと何キロだか忘れましたが、確か十七キロ位でしょうか、直線道路が続く所があり、最後の所にやぐらがありそこに登って写真を撮りました。北海

道らしい広々とした見事な景観でした。

バスはいよいよ知床半島に入ります、最初に訪れたのはオシンコシンの滝です、北海道とはいえ日中はかなり暑い一日でしたが、滝の近くまで行くとひんやりした風が吹き、温度も二・三度下がったように感じました。



お目当ての知床五湖ですが、野生の熊が出没の警報が出ていましたので、通行止めの鎖が張られ、直接回ることが出来ず、熊よけの電線が嚴重に張られた木の橋を渡って、展望台から知床一湖だけの写真しか撮れませんでした。

ただ知床五湖と言っても、富士五湖などと違い一番大きな二湖でも差し渡し四百メートル有るか無しか、五湖になると精々

百六十メートル位の可愛らしい湖です。写真で見える一湖でもこの角度から見た大きさは百六十メートル位です。それでも人の背丈より少し大きな木の間から次々に現われる眺めは又すばらしいものがあります。

野生動物の宝庫知床半島ではエゾ鹿の群れは勿論狐らしきものも見られましたが、帰りがけ最後の圧巻は熊が良く観られた事です。余り大きくない、薄茶色の熊が、道路脇三十メートル位の所を斜めに、奥の繁みに向かってゆっくり歩いて行く後姿を、バスを止めて頂いて皆で暫らく見せて貰いました。

誰か熊の写真撮った人は居なかったのかなー

バスは来た道を少し戻りウト口温泉知床グランドホテル北こぶしに入ります。夜の会食前に、まだ元気の残っている一団は、

少し歩いて小さな岬の先の海岸まで、オホーツク海の夕日を見に行きました。早く歩いたので何とか海に沈む直前の夕日を撮影することが出来ました。

盛大な宴会は夜遅くまで続けました。

翌二十三日(月)も良い天気、全員元気な一行を乗せてバスは釧路に向かいます。緑溢れる知床の山あいを進み最初の下車地知床峠に着きます。その間にもエゾシカを初めとする野生動物が散見出来ました。真近に羅白岳を望み素晴らしい景観です。ここでも記念写真を撮りました。



やがてバスは山道を下りますが途中窓からは北方四島の国後島の山々が雲海の上に所々頭を出していました。羅白峠を過ぎ標津町に入りここで国道を左折野付半島に入

ります。

入ると直ぐにノハナシヨウブがそこ此処に見られバスの中から歓声が上がりました。がどうも窓から見たところでは話に聞いた大群生地としては物足りない感じでしたが、やがてバスはレストハウスに止まり、この辺りの地形等の解説の展示を見ました。

その後清水理事長を先頭に、歩いて群生地原野に入りました。咲いています。今が盛りのノハナシヨウブ、残念な事に前夜の雨に打たれて穴があいた花が多く完全な花を探すのに苦労しましたが、広い場所に所狭しと咲いているノハナシヨウブ、圧倒的な迫力で迫ってきます。素晴らしい一言です、ノハナシヨウブの大群の前に言葉も



野付半島原生花園

有りません、開拓の手を入れずに何時までも残して欲しいと切に願うものです。木道から少しだけ入った所で花を傷めない様子を付けて記念写真を撮りました。

トドワラ、ナナワラの不思議な枯れ木の

群生を遠くに見た後、コースは一旦内陸に入り昼食となります。食事中近所のお祭りの山車、といつても飾り付けをしてお囃子を乗せた大型トラックが来て賑やかでした。それにしても北海道、此方もスケール

がデカイ。

バスは厚岸のあやめヶ原に向かい歩いて馬の居る牧場の中に入りましたが「ヒオウギアヤメ」は一・二週間前に盛りを過ぎてほとんど枯死状態で残念でした。

広々とした酪農地帯を通り

やがて浜中へ行く途中霧多布湿原の展望台に着きます。泥炭層を垂直に切り出した見本とかを見て、展望台に上がったら鶴が居るのがかすかに見えました。それから浜中の海岸に出てここでも湿原に咲くノハナシヨウブを木道から観察しました。此処の花も昨夜の雨に打たれて穴が開いたりしてかなり痛んでいました。

その後バスは厚岸を通り釧路に向かいます、最初の予定ではこれでホテルに入るコースでしたが明日の予定を先取りして釧路湿原の展望台に行く事になりました。展望台からの眺めは曇り空の空模様の方で既に暗くなりかけていましたので余り遠くまでは見えませんでした。

私事ですがその展望台で車の中でアマチュア無線の移動運用をしている、局が居まして名刺交換をする前に何度か交信した事が有る局長さんでした。当然ながら無線の世界です、お話ししたことは有ってもお互い顔を合わせるのとは初めてです。積もる話もありましたがバスの発車予定時間も過ぎておりますので話しは次の無線で御会いました時に譲って別れました。

釧路全日空ホテルに荷物を降ろした後、夜の食事の爲に町に出て「八千代本店」に向かいました。

ところで今回の旅行ではもう一つ目的がありました。それはライブラリーチームで採用する花菖蒲の写真を明日訪ねる芽室花菖蒲園で撮影することです。そこで撮影担当の橋本さんと村井は明日レンタカーを借りて本隊と別行動で芽室町の花菖蒲園に向かう為、酒はお預け、ご馳走はほどほどに食べて宴会を中座してレンタカー会社に向かいました。レンタカーを借りてきてホテルの駐車場に入れて一安心、ホテルの部屋でせんべいをつまみに一杯飲んでおしまい。ホテルからタンボールを貰って既に買ったお土産と着替えを詰めて宅急便で出して寝ました。

七月二十四日(火)今日も良い天気です、北海道に来て天候には恵まれています。本隊を迎えにバスが来た頃此方もレンタカーに乗り込んで出発です。まず和商市場に向かいます。



野付半島のノハナシヨウブ自生地



和商市場名物勝手井は最初どんぶりにご飯だけを入れて貰い、後は場内にある勝手井の看板の出ているお店で「いくら」でも良い「雲丹」でも良い好きな物を好きなだけ盛り上げる、最高の朝御飯サービスです。ホテルで朝食を食べてしまい失敗しました。

レンタカーはカーナビゲーションがセツトされていたので、カーナビの女性のアナウンスの指示通り走れば大丈夫、道に迷うことはありません。途中一休みして、橋本さんと運転を交代して北海道の大自然を満喫しながら快適に車は芽室町に向かいました。昼になったので帯広市内で昼食を摂り休憩もそこに芽室町役場に出発進行です。役場に到着すると公園緑地係の水谷さ

ん、上司の竹内さん、松野課長にご挨拶し、竹内、水谷さんの案内で花菖蒲園に向かいました。

花菖蒲園の広さには驚きましたが予め載っていた花の名前の入った地図を頼りに橋本さんと二手に分かれ両サイドから攻めて途中で行き違った所で終わりという形で撮影に掛かりました。

天気は良いのですが風が強い、花も既に



芽室町花菖蒲園

盛りを過ぎていたので良い花を探すのが大変でした。しかも前夜の雨にたたかれてか花びらに穴が開いているのが多い、かねて用意の傘を広げて撮影に掛かりますが、風が強くて花が揺れてしまい中々傘の影に入って呉れません。いざ撮影してもチェックして見るとぶれていて絵にならない、大苦戦でした。

これでは協会の公式記録には、とてもじゃないが無理です。しかも時間が無い、一応形ばかりで撮り終えて、橋本さんの居る所に向かいました。橋本さんの方も茎を片手で押さえて片手カメラで撮って苦労しているようでした。撮影最中に本隊も花菖蒲園に合流してきました。メンバーは二人増えて居ました。青森の中野渡さんと、現地鉦路の佐藤さんです。

本隊は和商市場を出た後白糠町「道の駅しらぬか恋問」に寄り、更に池田町で昼食を済ませ芽室町に来たようです。

既に時間も迫り心残りではありますが、役場の方々に挨拶して現地を離れることになりました。何かと出先では予期せぬ出来事が起こり、上手く行かないのは覚悟の上とは言え、時間には勝てませんでした。その上自分の撮影技術のつたなさを思い切り知らされました。更に技術を磨き再度挑戦したいと思いません。

尚、撮影時間が少ないこともあって水谷さんには事前に「一品種撮影して頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。」



お世話になった芽室町役場の水谷さん

レンタカー二人組は思い切り車を飛ばして「とち帯広空港」に向かいます。途中道を間違えたようですが返ってそれが幸いして、すれ違う車も無い間道を突っ走り思ったより早く空港近くのレンタカー会社に着きました。所定の手続きを済ませ車で空港まで送って貰うと、本隊のバスも丁度着いて皆が降りている所でした。

出発まで暫く時間が有り、ビールで乾いた喉を潤している間に、皆さんはお土産選びに頑張っておいででした。帰りの飛行機も順調で、全員無事羽田に帰り今回の研修旅行を終えることが出来ました。